

日中韓の経済人がソウルに集結 (ソウル)

▼3年半ぶりにビジネス・サミット開催



3カ国の経済人を前に祝辞を述べる安倍総理大臣 (ソウル)

11月1日、ソウル市内で開催された日中韓首脳会談に合わせ、3年半ぶりに日中韓3カ国の経済人によるビジネス・サミットが開催された。韓国の全国経済人連合会などが主催した。各国から総勢500人近くが集まり、日本側出席者は、在韓日系企業で組織するソウルジャパンプラブ (SJC) のメンバーなど150人近くに上った。

本サミットでは、世界のGDPの2割、北東アジアの7割を占める日中韓3カ国の更なる挑戦が、アジア全体のパラダイムを変え、世界の成長をけん引していくととらえ、R&Dやインフラ開発などの分野で各国企業間の一層の協力、また交流を促進していくことを確認した。

ところで、同サミット参加について各国企業に呼び掛けがあったのは、日中韓首脳会談の日程が決まった直後で、開催まであまり日は残されていなかったが、当日は会場レイアウトの変更を余儀なくされるほどの多くの出席者で埋め尽くされた。在韓企業だけでなく、本国から来韓した経済人も数多くいた。

3カ国は互いに重要な貿易相手国である。それだけに、今回の首脳会談を機に日中韓FTAやRCEP (東アジア地域包括的経済連携) など産業貿易分野の国レベルでの連携加速を望む声は大きい。

こうした経済界の期待に応えるように、安倍総理大臣、李首相、朴大統領の3首脳は、会談後の共同記者会見を終えた後、そろって同サミットに駆け付けた。

祝辞を述べるとともに、発表された「共同宣言」のもと、経済的協力の拡大などを行うことを各国経済界に約束した。

各国のトップがリーダーシップを発揮し、日中韓3カ国の協調のもとで経済関係を一層深化させ、貿易や投資が一層活発になっていくことが期待される。

▼在韓日系企業等によるジョブフェアを開催

同日、ソウル市内では、同サミットの関連イベントとして「日中韓青年人材採用相談会」が開催された。韓日産業・技術協力財団などの呼び掛けに応え、中国系の企業とともに、日系企業16社が出展した。

前回の拙稿でも書いたが、韓国の若者の雇用情勢は厳しく、好転の兆しを見せていない。9月時点での失業率は3.2%である一方、15~29歳の青年失業率は7.9%とかい離がある。加えて正社員の門戸は狭く、韓国の若者は、体感的にはさらに厳しいと感じている。

ビジネスパーソンとしての基礎を身につけるべき重要な時期を無為に過ごす損失は大きい。数多くの日系企業は、優秀な韓国人材を積極的に採用している。

▼日本人学校の児童らが合唱で歓迎



母国の伝統衣装を身にまとった日中韓の子どもたち (ソウル)

今回の首脳会談では、日本人学校の子どもたちも一役買った。同日夜に市内で開かれた朴大統領主催の晩さん会では、日中韓3カ国の子どもたちが、母国の伝統衣装を身にまとい、歓迎の合唱を披露した。日本の子どもたちは、和服姿で「ふるさと」を歌った。

SJCでは、駐在員の子どもが通う「ソウル日本人学校」を運営している。現在、小中学の児童、生徒合わ

せて約 440 人が在籍しており、今回は、その中から歌の上手な 5 名が代表した。

京都から着物を取り寄せ、学校の先生や SJC 婦人会が着付けなどの準備に奔走。前日には、中国、韓国の子どもたちと一緒に、一生懸命練習を行った。

残念ながら、晩さん会の模様はプレス公開されなかったが、子供たちが仲良く合唱する姿を見て、過密スケジュールの 3 首脳に、もしひと時でも安らぎを感じてもらえたならば幸いである。

(ソウルジャパンクラブ 常務理事 松本 憲治)